

# 桃栗3年柿8年、情報提供は10年？

私が、社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター（以下「JPNIC」）の事務局長に就任したのが2001年8月ですから、その時点から数えて早10年が経とうとしています。この21世紀の最初の10年、JPNICはいろいろなことに関わりました。

主なものを述べますと、事業の面では、JPDメイン名登録管理業務の株式会社日本レジストリサービス（JPRS）への移管（2002年）、インターネットガバナンス・タスクフォース（IGTF）の活動（2004年～2006年）、IPv4アドレス在庫枯渇への対応活動（2007年～現在）等の推進が挙げられます。一方、イベントとしては、北九州でAPNICオープンポリシーミーティング（2003年）、京都でAPRICOT（2005年）、東京で2回のSIPit（2006年、2009年）等の開催に参画（APRICOTは共催）しました。そして、日本語ドメイン名運用試験（2000年～2003年）、ENUMトライアルジャパン（ETJP）の活動（2002年～2005年）、JPIRRの運用（2002年～現在）等の調査研究業務の推進を行ってきました。

こうしたいろいろな活動の進捗状況をWebでクイックに報告していますが、さらに理解を深めていただくためのツールとして、ニュースレター、メールマガジン（JPNIC News & Views）、ICANN報告会の三つをJPNICは有しています。それぞれの位置付けは、JPNIC会員を対象とした会報誌のニュースレター、不特定多数の読者を対象としたメールマガジン、講演会＋質疑応答形式のICANN報告会、と異なりますが、資料はWeb上ですべて公開しています。この三つのツールのうち、メールマガジンとICANN報告会は私が事務局長に就任した2001年生まれで今年で10歳になります。また、ニュースレターも創刊自体は1994年ですが、2002年に現在のものにほぼ準じた構成へと誌面を大幅にリニューアルし、こちらもそろそろ10年目を迎えます。スタートして3

年間程は、紙媒体にして配るのはコストの面からもったいない（ニュースレター）、マニアックで難解（メールマガジン）、だらだらとした報告で眠気を誘う（ICANN報告会）等のコメントを頻繁にいただきました。その後、さらに3、4年たった頃からは、インターネットガバナンスやIPv4アドレス在庫枯渇に関連する報告が多くなり、正確で整理された報告が要請されました。こうして皆さんに鍛えていただいているのですが、10年を経て学んだことは、何を報告したいかを明確にすることが最も重要で、どのツールを使うのがよいかはその次、ということです。どのツールでも、視点を明らかにし所見を分かりやすく述べる、ことは同じですから。

情報提供というのは、公益法人にとって公益に資する重要な業務ですが、極めて地味な業務です。水と情報は「ただ」と思っている、と評される日本人が「JPNICの情報提供は役に立つ」と感じ、表明してくれるようになるには、ある程度の歳月が必要と考えますが、三つのツールの使い方については、10年を経て、的確になってきていると感じます。果実がなるのに、桃栗3年柿8年と言いますが、JPNICの情報提供は10年かけて一つのハードルを越えたと思います。これを果実と言えるかどうかは皆さんの判断にお任せしますが、私は、後任の林事務局長の下、これからさらに改善が進むことを期待します。

## ■プロフィール 成田 伸一（なりた しんいち）

2001年8月～2009年11月社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター事務局長、2010年6月より同理事、現在に至る。現職は株式会社ASJ社長室長。



JPNIC理事

成田伸一